

白石踊後継者育成事業 白石踊会笠岡支部 今月の活動（令和3年8月）

令和3年8月の白石踊に関わる高校生の活動について高校生自身に報告文を書いてもらいました。

1. 「800年の時空の旅 源平の夢の跡をたどる日帰りの旅」新聞掲載

7月10日に実施したツアーについては先月分として報告済みですが、8月10日の山陽新聞紙面で特集されました。ツアーのプランを岡山イノベーションコンテストに応募したことがきっかけでしたので、高校生の受賞プランが初めて実現した事例として紹介いただきました。



著作権の関係でここには掲載できませんが、岡山イノベーションプロジェクトのサイトに載っていますので、ご紹介します。<https://www.oi-project.jp/archives/3784/>

白石踊会の皆様をはじめとして多くの方々のご協力のおかげで実現させることができました。改めて御礼申し上げます。
(文章：今城慧郁)

2. 風に立つライオン基金の高校生ボランティア・アワード2021 出場

8月17日に私たちは高校生ボランティア・アワード2021に参加しました。新型コロナウイルスの影響で、名古屋国際会議場での発表の予定がオンラインでの参加に変更になったうえ、1日だけの開催になりました。



事前交流会で選抜された16団体の高校生の活動発表の紹介があり、私は皆さんがとても行動力がある方々だと思いました。SDGsに関連した取り組みをされていて、その中には大人たちや卒業生の先輩方の協力もいただきながら進めている活動もありました。特に印象に残ったことは殆どの団体の活動が新聞に掲載されていて、活動を知ってもらおうという内容や功績を称えるものでした。今回なんと、私達「白石踊800年の伝統を受け継ぐ会（金光学園高校・笠岡工業高校・笠岡商業高校・笠岡高校・高梁高校・矢掛高校・倉敷古城池高校・西備支援学校・岡山大安寺中等教育学校の合同チーム）」が、特別賞「新羅慎二賞」を受賞しました。新羅慎二さんからは「地域の文化や風習から学ぶことは大事。特に島外から集まって文化を継承しようとしていることに感銘を受けた。」と選考理由を伝えていただき、私たちは白石踊を披露して喜びを表現しました。私たちの活動は3年連続で特別表彰をしていただいたこととなります。このことに誇りを持ちながら活動を続けていきたいと思えます。
(文章：小野さくら)



3. 新聞投稿記事掲載

① フランス人留学生による白石踊体験の感想

金光学園高等学校に留学していたフランス人の男子生徒が、今年度は金光学園高校の探究授業で白石踊継承活動に取り組みました。その一環で7月10日に「800年の時空の旅 源平の夢の跡をたどる日帰りの旅」に参加した感想を山陽新聞に投稿し、8月5日の朝刊に掲載されました。

投稿文は以下の内容です。なお、この生徒は、現在は帰国しています。

私はフランスから来た留学生です。日本文化と日本料理と日本語が気になったから日本に来ることにしました。

先日、白石島にツアーに行きました。そのツアーはみんなも楽しそうでした。白石踊を見られたことは本当に素晴らしい経験になりました。見たあとにみんなで円になって踊りながら踊りを教えてもらうのは難しかったので、踊る前に白石踊の踊り方を教えてほしいと思いました。白石踊はとても昔からのことなので守らないといけませんし、留学から帰ってフランスでも白石踊のことを教えることができるので、いい体験だったと思います。

白石島のツアーでは、歴史について話していることがちょっと難しくてよくわからなかったです。白石島で食べさせてもらった料理は特別な地元料理でとてもおいしかったです。

笠岡の道の駅で食べたソフトクリームもおいしかったです。私はこのツアーはとても素晴らしいものだと思います。
(文章：レオ・ル・ドレフ)

② 高校生ボランティア・アワード参加の感想

9月1日の山陽新聞朝刊に掲載されました。

私たちは笠岡市白石島に伝わる白石踊の継承活動をしています。先般、風に立つライオン基金主催の「高校生ボランティア・アワード2021」に参加しました。新型コロナウイルスの影響で実際に名古屋の会場に集まることはできませんでしたが、オンラインで多くの高校と交流できて良かったです。

エントリー113団体(129校)から高校生の互選で選ばれた16団体が活動紹介をしました。地域密着から発展途上国の支援などおのおののボランティア活動の様子が伝わってきて、私達も行動範囲を広げていきたいと思いました。また、共感する点も多くあり楽しんで聞くことができました。

私たちは特別賞もいただき、白石踊を踊って披露することもできました。全国でボランティア活動に励んでいる高校生のアイデアや経験談などを参考に、今後の白石踊の伝統継承活動を盛り上げ、もっとたくさんの人に知っていただきたいと思いました。

(文章：六原未智)

以上